

番組を視聴する会

平和を伝える・記録する・考える 国と国のはざままで

9月16日(金)～29日(木) ▲20日(火)、26日(月)は休館

開始時刻	プログラムA 「女性たちの思い」	放送局 放送日
1回目 10:30	悲劇の王女 川島芳子 清朝の王女として生まれながら日本人として育てられ、教習な運命をたどった川島芳子。戦争に翻弄された人生と、信州とのかかわりを追うドキュメンタリー。◆北京で生まれた芳子は、長野県の松本高等女学校で学んだ。髪を短くして男性の服装をしていたことや、日中戦争が始まると日本軍の活動に協力したことなどから「男装の麗人」、「東洋のマタ・ハリ」などとマスメディアに取り上げられた。戦後、日本のスパイとして中国によって逮捕・処刑された。	テレビ信州 2005.4.30 50分
2回目 13:40		
1回目 11:30	NNNドキュメント'98 クラウディアからの手紙 終戦後のロシアで40年近く連れ添った現地の妻と別れ、日本に残した妻の元へ永住帰国した男性がいる。終戦から半世紀を過ぎての別離と再会。戦争が個人に与えた不条理と人間の愛情の深さを描くドキュメンタリー。◆ロシア極東に位置するアムール州に住むクラウディアさんは1997年、37年間一緒に暮らしてきた日本人の夫・弥三郎さんを日本に帰国させた。弥三郎さんは、彼の生存を信じて日本で待っていた妻・久子さんと51年ぶりに再会する。 ●第47回日本民間放送連盟賞教養番組優秀、1999「地方の時代」映像祭大賞、第36回ギャラクシー優秀賞	日本海テレビ 1998.11.17 51分
2回目 14:40		
1回目 12:35	わたしは菊子、日本人です ある残留棄民41年目の証明 残留孤児として認められず、国籍を持たないまま生きてきた女性を追ったドキュメンタリー。◆中国残留孤児の定義は「終戦時、13歳未満の者」に限られていた。そのため本人の意思で中国に残ったと見なされ、援助対象からも外されてしまった人々がいる。そのひとり、遼寧省に住む菊子さんは大連生まれ。幼いころに父母と死別後、中国人と日本人の養父母に育てられ、中国人と結婚した。終戦当時は16歳、身元がわからないため日本への引き揚げもかなわなかったという。彼女たちの戦後を追い、忘れられようとする中国残留婦人の問題を探る。	中京テレビ 1986.6.21 48分
2回目 15:45		

9月30日(金)～10月13日(木) ▲10月3日(月)、11日(火)は休館

開始時刻	プログラムB 「家族の歴史」	放送局 放送日
1回目 10:30	西武スペシャル 波の盆 今もハワイに伝わる盆踊りを背景に、日系移民一家の波乱に満ちた歴史を描きながら、ふるさと日本に対する日系移民の複雑な思いをたどるドラマ。◆明治45年(1912)、16歳で単身ハワイへ移住した公作(笠智衆)はミサ(加藤治子)と“写真見合い”で結婚した。理髪店を営み、5男2女に囲まれた幸福な暮らしは、日本の真珠湾攻撃で終わりを告げる。 脚本：倉本聰、音楽：武満徹、監督：実相寺昭雄 ●第38回芸術祭大賞、第1回ATP賞グランプリ、第16回テレビ大賞優秀番組賞	日本テレビ 1983.11.15 96分
2回目 13:40		
1回目 12:25	ドラマドキュメンタリー 約束 ～ユエイエン～ 第二次世界大戦の末期、旧満州(現在の中国東北部)からの引き揚げ時にひとりの男児を中国人に託した日本人家族がいた。原作者へのインタビューを軸に、回想シーンをドラマ仕立てにして構成したドキュメンタリー。◆終戦間際、満州から4人の子を抱えて日本に引き揚げようとする母子家族がいた。そのうちのひとり、当時1歳半の男の子は長旅に耐えられないほど衰弱していた。その子の命を守るため、母親はその子を中国人に託し「戦後、決して捜しに来ない」、「中国人として育てる」という固い約言(ユエイエン=中国語で約束)を交わした。娘であり、男の子の姉である長女は今、何を思うのか。原作：若松みき江●第44回ギャラクシー奨励賞	北海道放送 2006.5.22 59分 ラジオ番組
2回目 15:35		

10月14日(金)～10月27日(木) ▲10月17日(月)、24日(月)は休館

開始時刻	プログラムC 「平和の希求」	放送局 放送日
1回目 10:30	戦場に音楽の架け橋を ～指揮者 柳澤寿男コソボの挑戦～ 民族問題を抱えるコソボで楽団を指揮し、友好の証としてコンサートを開いた日本人を追うドキュメンタリー。◆2008年2月にセルビアから独立したコソボ共和国。「国立コソボ・フィルハーモニー」の指揮者となった柳澤寿男さんは、独立前からこの国に関わり、東京に家族を残して単身生活を送る。かつてセルビア人によって支配されていたコソボは今、対立していたアルバニア人が大多数を占め、その歴史の怨恨からいまだに対立が続いている。柳澤さんは「音楽」によってコソボに残る民族問題に橋をかけようと、両民族の対立を象徴する橋があるミトロヴィッツァで開くコンサートを企画した。●第6回日本放送文化大賞グランプリ	BSテレビ東京 2009.6.20 101分
2回目 13:45		
1回目 12:20	50年目の遺言 ホロコーストと命のビザ 杉原千畝の決断 第二次世界大戦中、ナチスとソ連によるユダヤ人迫害・大虐殺の中で、彼らを国外に脱出させるための入国査証(ビザ)を発給し続けたリトアニア領事代理・杉原千畝。彼の偉業を検証するとともに、迫害の跡をたどるドキュメンタリー。◆1939年11月、リトアニアの領事館に赴任した杉原は、日本政府の反対を押し切ってユダヤ系難民およそ6,000人分のビザを発給する。やがて責任を問われ日本へ帰国するが、脱出に成功して生きのびたユダヤ人たちは彼を命の恩人と思い、天使のような人と語る。	名古屋テレビ 1995.12.29 73分
2回目 15:35		

◎予告なく番組を変更・休止することがあります。

放送ライブラリー